

神楽名

しもぐみ 下組神楽

伝承地

上野地区

高千穂町大字上野

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

下組神楽保存会

代表 佐藤 弘文



八 鉢

◆ 神楽の概要・由来・その他

下組神楽が伝承されている下組公民館区は、高千穂町中心街から西に延びる国道325号線沿いの上野地区南側に位置する集落である。村世帯数は90戸で構成されている。氏神社の柚木野神社は、古くは柚木野大明神と称し、山の神である大山祇命おおやまづみのみことと農業の神として祭祀される歳神としのかみを主祭神とし、明治4年（1871）に集落の小社しょうしゃや天神社てんじんしゃを合祀している。

夜神楽は10数戸を小組とする6つの集落の廻し当番で行われ、柚木野集落が当番の年は神社敷地内の自治公民館を神楽宿としているが、その他の集落では民家を神楽宿としている。下組では当番集落に祭祀されている水神の数だけ御幣を作り、水神よりしろ依代として丸藁に刺し、神前中央に安置する。旧上野村・田原村系統に属する下組神楽では、立烏帽子たてえぼし・角髪鉢巻みずらの他に折烏帽子おりや毛笠けがさと呼ばれる頭髪が用いられる。

◆ 芸能の機会・場所

- 下組夜神楽... 11月22～23日 下組公民館または民家にて
- 新嘗祭... 11月23日 夜神楽終了後、「式三番」柚木野神社舞殿にて
- 歳旦祭・太鼓の口開け... 1月1日「式三番」柚木野神社舞殿にて
- 春の大祭... 4月29日 浜降りの後「鎮守」を舞う

◆ 演目一覧

神迎え・宮神楽	御神幸	神楽宿神事	みこやほ 御小屋誉め	彦舞	たいどの 太伊殿
神おろし	ちんじゆ 鎮守	すぎのぼり 杉登	ちがため 地固	ひかんぜ 幣神添	太刀神添
おきえ 沖逢	おんしば 御柴	袖花	やつばち 八鉢	しちきじん 七貴神	ごしんたい 御神体
岩潜り	弓正護	住吉	山森	本花	五穀
大神	ちわり 地割	ぶち 武智	柴引き	伊勢神楽	たちからお 手力男の舞
うずめ 鈿女の舞	戸取り	舞開	日の前	くりお 繰下ろし（前半）	しめぐち 注連口
繰下ろし（後半）	くもお 雲下ろし				

※平成28年11月に奉納された演目に基づく

❖ 演目の特徴

下組神楽は、上野・田原系神楽に属し、「幣神添^{ひかんぜ}」の時に道化荒神が舞込むのが特徴である。「杉登^{すぎのぼり}」では鬼神の四方割の時、尻つき（素面の舞人が荒神様の後ろに付いて鈴を鳴らす）が入る。少彦名命^{すくなひなのみこと}が命付けされている「八鉢^{やっばち}」は「八掬^{やっばち}」とも解され、太鼓での曲打ちに合わせ逆立ちで舞うなどアクロバティックな演目である。本来一人舞だが、親子舞で納めることもある。「地割^{ちわり}」の竈荒神^{かまど}では台所役の女性達が御神屋^{みこうや}に入る荒神様の裾引きをするが、神庭^{こうにわ}に入ることはない。神庭は厳格に守られている。夜明けには岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」が奉納され、最後に「繰下ろし」「注連口^{しめぐち}」「雲下ろし」で神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面... 猿田彦、入鬼神、地割荒神、御神体、柴引、鈿女、戸取 等
- 楽... 太鼓、笛、ガタ
- 装束... 白衣、素襖^{すおう}、千早^{ちはや}、白袴、裁着袴^{たっつけはかま}、襷^{たすき}、鉢巻、毛笠、どっさり、烏帽子^{えぼし} 等
- 採り物... 鈴、扇、御幣、刀、面棒（荒神杖等）、櫛、弓、矢、榊枝、木桶、竹ざる、折敷 等
- 文書... 「御神楽諸大事」（昭和拾四巳卯年旧四月吉日）、「神代御楽記録」（明治八年上野神社神官筆） 等

❖ 伝承の現状・課題

15人の神楽祝子者のうち、20代から40代の後継者が半数を占めるようになり、熱心な伝承活動を継続している。技術の伝承や神楽の準備体制作りも重要な課題となっている。注連縄を地区で緬^なう事が難しくなっており、左緬^{ひだりな}えが出来る者が少ない。今後は黒口と共に神楽を奉納する動きも出てくるだろう。



七貴神



大神



戸取り